



九州北部を中心とした豪雨災害に

あわれまされた皆様に心より

お見舞い申し上げます

平成二十九年七月九州北部豪雨により犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。被害に遭われた皆様に「お見舞い」を申し上げます。一日も早く復旧・復興が出来ますようにお祈り申し上げます。

五二〇ミリを超える

記録的豪雨を観測

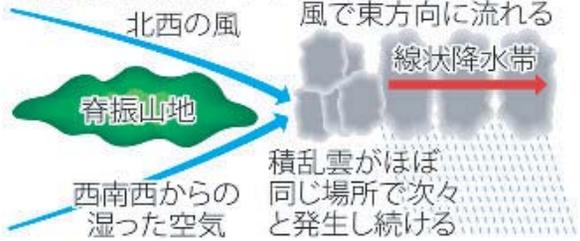
平成二十九年七月五日福岡県と大分県を集中豪雨が襲いました。

この日福岡県朝倉市では、降り始めの雨量が五百二十ミリを超える記録的豪雨が観測されました。

市内を流れる一級河川の筑後川やその川に流れ込む多くの支流の河川で、川からあふれた水や土砂、流木で家が押し流されるなどの被害が出ました。

また、朝倉市の隣の大分

九州豪雨で線状降水帯が発生した仕組み (図1)



線状降水帯とは

次々と発生した雨雲（積乱雲）が列をなし、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる強い降水を伴う雨域

県日田市でも同じように河川の氾濫による、大きな被害が出ていました。九州で初めて

「大雨特別警報」を発表

この日気象庁では、九州では初めて、「大雨特別警報」を発表しました。

テレビの画面や、ニュース、天気予報で、「命を守る行動をとってください！」と何度も繰り返しコメントされていきました。

この大雨は、昼頃から夜遅くにかけて筑後地方から大分県西部にのびる線状降水帯（図1）が形成されて猛烈な雨が降り続いたものです。マスコミの報道でも分か

るように、河川の氾濫、土砂災害に加え、流木による被害が目立っており、復旧の妨げになっています。

また、朝倉市内の一ヶ所の透析施設が断水したため、この施設の患者さんは近隣の十一の施設に分かれて透析を受けることができたそうです。

災害発生時には孤立していた地域などもありましたが、自衛隊や消防、警察に加え、海上保安庁の方々のおかげでほぼ解消しているようです。七月十九日現在お亡くなりになった方三十四名行方

しっかりと感謝を

忘れずに活動を

平成二十九年六月四日（日）十時三十分から北九州国際会議場のメインホールで福岡県腎臓病患者連絡協議会（以下福腎協）主催の第四十五回大会が行われました。参加者は、来賓、会員、家族、医療スタッフ総勢三七〇名でした。「さわやか」からは、各腎友会の会員として四名参加しました。

司会進行の福腎協の森満義彦副会長から「ようこそ北九州へいらっしやいました。三年ぶりに戻ってきました」

第四十五回の節目の大会

塩屋利且会長から「本日、北九州としては二回目の福腎協大会となり、第四十五



福腎協 塩屋利且会長

不明者七名となっています。行方不明の方が一日でも早くご家族のもとに帰ることが出来ますように。朝倉の三連水車が織成す水の音や、その水車により水が蓄えられた一面の水田の美しい風景が一日も早く戻ってきますように祈るばかりです。



ガンバルバイ！福岡・朝倉

エンディングノートを作成

福腎協は全国に先駆けて昨年度一年がかりで、各々の方々にアドバイスをいただきながら皆様にはわかりやすい『エンディングノート』を作成しました。腎臓病を患う透析患者及び透析までいっていない保存期の方々全員に配りました。また、各県の代表が集まる総会で紹介したところ、反響が大きく、欲しいとの要望があり、全国の仲間に配布し、病院の各施設にも配布しました。本当に作成してよかったなと思っております。是非このエンディングノートを活用していただき、安心して透析治療に専念していただきたいと思

います。皆様によりになる、頼りにされる福腎協であるよう、また強い福腎協を目指していきますので皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願致します」と主催者挨拶がありました。

（裏面へつづく）

事務局よりお盆休みのお知らせ

8月11日（金）から
8月16日（水）まで

お休みします

ポランティアさん及び利用者の方には、個別にお知らせします



記念講演

「Dances of the Heart」

透析医療の現状と未来

小倉記念病院 副院長

金井 英俊 先生

金井英俊先生は、二〇〇五年より小倉記念病院腎臓内科部長を経て現在は小倉記念病院副院長として活躍されています。

先生は、今回の講演に一回〇枚ものスライドを用意していただきました。

健康に透析を受けるために

腎臓以外は健康で
金井先生は、「透析医療



小倉記念病院 金井 英俊 先生

(表面のつづき)

続いて、来賓挨拶として、衆議院の方々や開催地の北橋健治北九州市長から「三年ぶりに北九州市で福腎協大会を開催が行われました。

塩屋会長をはじめ皆様におかれましては日頃から、会報誌やSNSを利用した最新情報を発信しており、様々な場

の現状としては、全国の透析患者は三十二万人います。ライフスタイルとして健康に透析を受けるためには体も腎臓以外は健康でなければいけない。

全国で慢性腎臓病の患者

千三百三十万人を超える

また、予備軍である慢性腎臓病の患者さんが千三百万人を超えています。

日本の成人の八人に一人が透析を受けているか、将来透析になる可能性があると言われています。

糖尿病から透析になる患者が多くなっており、最近では糖尿病からくる足の血行障害が問題になっています。次に、透析患者はカリウ

面で、患者さんの支援に精力的に取り組んでいることに心から敬意を表します。また、皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします」とお言葉をいただきました。

その他に県議会議員の方々、福岡県透析医学会より祝辞があり、その後来賓の方々の紹介があり、大会式典は終了しました。

ムには気をつけないといけません。

重篤にならないと口の痺れや足に力が入らないなど、神経性の自覚症状がでません。

最近ではカリウムが少ない野菜(レタス)が開発されていますので活用してはいかがでしょうか。今後は、トマト・メロンが開発中とのことです。

北九州市の取り組みとして、特定検診が五年前から始まって糖尿、透析患者を減らそうと取り組んでいて、毎年二百人から三百人が腎臓病専門医を受診しています。早期発見、早期治療にて透析導入患者は一割ほど減っています。

最後にメッセージとして、『あきらめない』、『夢はいつか叶う可能性がある』、『へこたれない』、『先は長いので『頑張りすぎない』でほしい』と話され記念講演は終了しました。

昼食休憩を挟んで、午後から第二部が始まりました。最初に、透析はたち記念品贈呈式があり、今年には県内七十六名の方々、透析導入満二十年を迎えました。透析はたちの皆さんを代表して、福腎協の塩屋利且会長が挨拶しました。

次に、北九州マンドリン合

奏団の方々十八名による演奏会が行われました。マンドリンの柔らかな、華麗で透き通る音色に会場の皆さんは引き寄せられて聞き入っていました。

もいました。演奏の最後は、福腎協の蔵原憲次副会長と共に「ふるさと」を会場の皆さんと大合唱して演奏会は終了しました。最後に福腎協の宇野壽副会長による閉会宣言で午後二時三十分福腎協大会は終了しました。

マンドリンコンサート スナップ集



みんな聞き入っています♪

